

# 平成 30 年度全国体力・運動能力調査 笠間市の結果について

## 《平成 30 年度全国体力・運動能力調査の概要》

### 1. 調査の目的

子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

### 2. 調査の名称

「平成 30 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

### 3. 調査の対象とする児童生徒

小学校第 5 学年および中学校第 2 学年

## 《笠間市平均と全国平均および茨城県平均との比較》

### 小学 5 年生

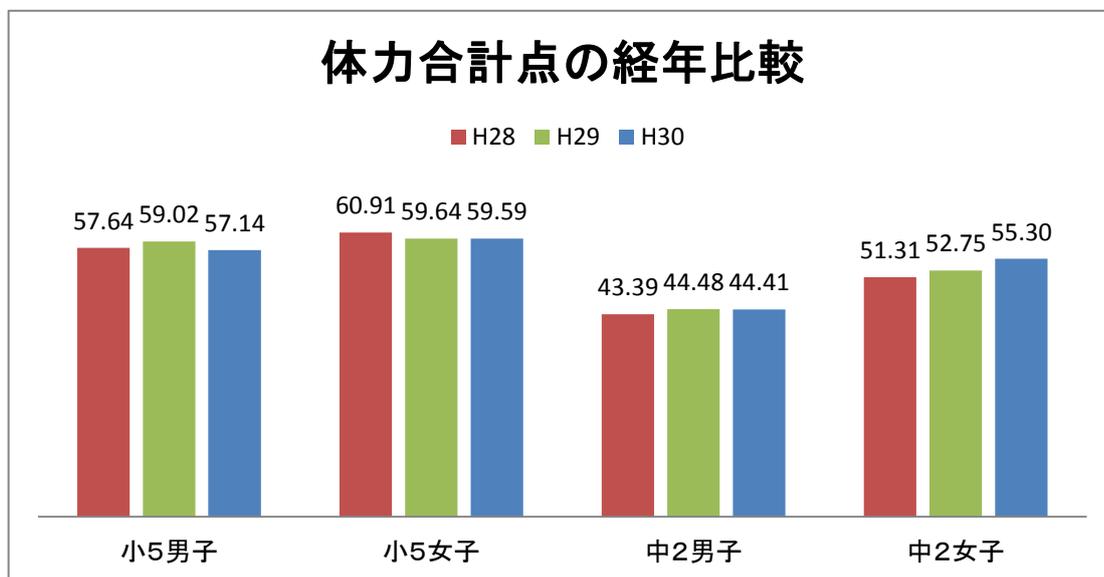
小学 5 年生では、男子はソフトボール投げを除く 7 種目、女子は全 8 種目で全国平均を上回った。  
茨城県平均と比較すると、男子は握力・20mシャトルラン・ソフトボール投げを除く 5 種目、女子は握力・20mシャトルラン・立ち幅跳び・ソフトボール投げを除く 4 種目で笠間市平均が上回った。

### 中学 2 年生

中学 2 年生では、男子・女子ともに全種目で全国平均を上回った。  
茨城県平均と比較すると、男子は 20m シャトルラン・50m 走・ソフトボール投げの 3 種目、女子は長座体前屈を除く 7 種目で笠間市平均が上回った。

## 《笠間市の経年比較(体力合計点)》

笠間市では、中 2 女子のみ前年を上回った。



## ≪笠間市の課題および学校の取組≫

### 小学5年生

男子は8種目中7種目、女子は全種目で全国平均を上回った。また、都道府県別平均全国第4位（男子）第2位（女子）の茨城県の値を上回っている種目が多く、高い水準にあるといえる。各学校では、中休みや昼休みに縄跳びやランニング、サーキットトレーニング等の全校運動を実施している。これらの取組が跳力や長距離走力、握力の向上に繋がっているとみられる。一方、握力やソフトボール投げに課題が見られる。投げる動作を積極的に授業や遊びに取り込み、握力や投力の向上につなげていく必要がある。

### 中学2年生

男女共に、全種目で全国平均を上回った。また、都道府県別平均全国第2位（男子）第3位（女子）の茨城県の値を上回っている種目が多く、高い水準にある。中学校では走力の向上に努めている学校が多く、その効果は20mシャトルランや50m走の記録に現れている。一方、長座体前屈に課題が見られる。準備運動時の十分なストレッチの実施や、個人の運動能力に合わせたトレーニングメニューの作成といった柔軟性の向上に対する取り組みが必要である。

小中学生とも、運動能力には個人差があることから、自分自身で楽しみや課題を見つけ、運動に主体的に継続的に取り組むことが重要である。そのために、学校では動機づけとなるような環境の整備や、授業の質を高めるなどして児童生徒の意欲や体力を引き出していく必要がある。